

日食観測セイリング計画について

'81日食セイリング実行委員会

7月31日の日食の皆既帯は、シベリアから樺太・オホーツク海・千島列島を通り、北太平洋上をハワイ諸島の北方まで伸びています。シベリアで観測を行なう計画もいくつかのプランが進行中のようですが、私達はこの皆既日食が日本近海で見られることに注目して、客船による日食観測セイリングを企画しました。

私達がチャーターした船は、世界有数の海運国でもあるソ連の“オルガ・サドスカヤ”号という昨年建造の最新鋭大型客船で、全長約100m、総屯数は約4,000トンあります。この船の定員は200名とゆったりしており、船室は4名ずつの個室、日光浴のスペースはもちろん、生バンド付のダンスホール、バーや美容院まで完備していて、快適な船旅が楽しめることでしょう。出発は7月28日夜苫小牧発で、8月3日早朝苫小牧にもどる実質5日間余りの船旅です。

観測地点は一応根室の東方約1,200kmの東経161°、北緯44°付近を予定していますが、直前の気象データをもとに晴天の可能性の高い場所に移動できるように準備中です。この付近の皆既帯中心線上では、日本時間13時35分頃（地方時15時15分頃）に約1分40秒間の皆既日食が約43°の高度に見られるはずですが。

北太平洋というと、冬は低気圧の基地と云われ荒れることで有名ですが、日食の起こる7月から8月にかけての時期は太平洋高気圧の圏内に入り、天候は安定し波も静かであるといわれています。従ってひどく船酔いに悩まされるというような心配はあまりないと思われます。天気に関しては「日食情報1980年164」に過去3年間の7月31日前後の気象衛星のデータが紹介されていますので、参考にさせていただきたいと思います。おおまかには、梅雨明け後のオホーツク海高気圧の勢力によって皆既帯付近の天気は影響されるようですが、船を適切に移動させれば晴天の海域をとらえることは可能だろうと思われます。

持ち込まれる観測機材はもちろん自由ですが、地上での観測と違い波静かな場合でもどうしても船は多少は揺れますから、あまり大型の望遠鏡を持って行ってもその性能を十分発揮することはむずかしいでしょう。一般にはスナッフ撮影用のカメラと500%以下の望遠レンズ、それに三脚が1本あれば十分でしょう。また、コロナをじっくり眺めるために双眼鏡は各自1台ぜひ持って行かれるようにお勧めします。コロナは肉眼で見ただけでも十分素晴らしいのですが、7倍ぐらいの双眼鏡で眺めれば視野全体に拡がった流線が素晴らしい迫力で見られ、必ず感懐されること請け合いです。

観測機材とも関連しますが、何か観測データを残したいと思われる方は、次のようなテーマが船上観測のテーマとして適当ではないかと思ひます。

(1) コロナのスケッチ……………双眼鏡

眼で見た通りのコロナの姿を記録する。写真とは違った印象が得られるはずですが。

- (2) 本影錐……………肉眼又は広角～魚眼レンズ付カメラ
月の本影の輪郭をとらえる。
- (3) シェードバンド……………スチールカメラ・ムービー・光電測光 etc
皆既の直前・直後にあたり一面に走るさざ波のような不思議な影を記録する。
- (4) 気象観測……………温度計・気圧計・風向風速計・照度計 etc
日食ともなる気象変化の記録。
- (5) 太陽付近の新天体の捜索……………肉眼又はカメラ
太陽の強い光のために見のがされているかも知れない彗星や新惑星の捜索。

実質5日間の船旅中の行事の企画は現在色々練っている最中ですが、今のところ次のようなものを計画中です。

- 1. 日食説明会
日食の原理、日食中に見られる現象の解説、過去・未来の日食の概要等を解説。
- 2. 過去の日食観測の記録紹介
できるだけ多方面からの御協力を得て、スライド・映画・ビデオ等を紹介したいと考えています。
- 3. 星座説明会
光害の全くない夜空の下で船上プラネタリウムを開く予定です。
- 4. 日食観測成果報告会
日食後に各自の成果や印象を話し合う交歓会。

この他、船旅をより楽しいものにするために、ダンスパーティーや夕食会といった軟かい企画も計画中です。また、参加される皆さんにも楽しい計画を持ちよっていただき、広い船内を充分に活用していただきたいと思います。